公共事業ニュース

東京支局 TEL.03(5425)2070
多摩支局 TEL.042(527)7291

4月上旬にも公告

中央区

日本橋中学校改築の一般競争

中央区は、4月上旬にも日本橋中学校改築の一般競争入札を公告する見通しだ。建築、機械設備、電気設備の3工種を分離し発注する。第2回区議会定例会で契約案件を付議し、秋ごろの着工を目指す。

新校舎の規模は、鉄骨一部鉄筋コンクリート造、地下1階地上7階建て延べ約1万7800㎡。学級は2学級とし、教室は南東側に配置する。こちらは9年5月末の完成を見込む。公園内施設整備などについては、学校改築の追加工事を想定する。

公園内施設の屋上部分は日本橋中学校の校舎2階からのアクセスを可能とする。さらに浜町河岸緑道との間には連絡橋を設け、隅田川テラスまでの水辺・歩行者ネットワークを形成する。

改築に伴って解体する既存校舎の規模は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造、地下1階地上6階建て延べ約8707㎡。解体工事は改築に含めて発注する。なお、改築中は公園内施設を使用する。新校舎などの建設は東日本橋1-10。敷地面積は3251㎡。設計は佐藤総合計画（墨田区）が担当。

再開発後のVRイメージ

浜町公園内の仮校舎を使用する。新校舎などの建設は東日本橋1-10。敷地面積は3251㎡。設計は佐藤総合計画（墨田区）が担当。

品川区

水辺利活用推進計画素案 3月の本計画策定へ

品川区は、水辺利活用推進計画の素案を公表した。パブリックコメントを経て、3月の本計画策定を目指す。計画期間は2025～34年度の10年間。魅力ある水辺を活用することで、まちと一体となったソフトとハード施策を推進する。計画対象は、天王洲運河・品川運河の「天王洲エリア」「目黒川エリア」、勝島運河・立会川・京浜運河・勝島南運河の「勝島・京浜運河エリア」の整備し、まちと水辺、水面をつなぐハード拠点としての機能を強化する。船着き場の利用促進による後背地の機能拡充や、施設整備について検討する。

このうち天王洲エリアでは、旧東品川清掃作業所跡地の活用方を検討する。近接する東品川二丁目船着場の改修を検討・整備し、まちと水辺、水面をつなぐハード拠点としてのリニューアルに合わせた船着き場のバリアフリー化を含めた改修を実施する。（仮称）勝島人道橋の設置や、しながわ花街道、新浜川公園の再整備により、水辺の回遊性や利便性を向上させる。

目黒川エリアでは、景観性などに配慮した水辺の柵へ改修する。滞在型利用を促すような水辺施設などの整備や、大崎駅東口第4地区の再開発事業に合わせた船着き場の整備などについて検討する。再開発の敷地と一体となった親水護岸の可能性も探る。

勝島・京浜運河エリアでは、しながわ水族館の

自由が丘駅周辺まちづくり 3D都市モデルを活用

目黒区

目黒区は、自由が丘駅周辺地区のまちづくりで、3D都市モデルを活用する取り組みを開始した。将来の整備イメージを示すことにより、関係者との合意形成などにつなげる。

2024年度は自由が丘1-29地区市街地再開発事業に、都市計画道路補助第127号線拡幅事業を追加した。

道路整備イメージをVR化

「PLATEAU（プラトー）」をベースに作成したVRを活用することで、整備イメージを共有し、整備内容の合意形成に活用していく見込みだ。将来的には自由が丘駅周辺地区の広範囲をVR化することを目指していく。

私たちの"就職戦線"⑰

―建設系学生・生徒に就活のホンネを聞く―

墨田工科高校・上

1900年の創立以来、数多くの人材を輩出してきた墨田工科高校。生徒は建築科や電気科などに四つの専門科の中から選択して入学する。本年度は99人中96人が就職を希望し、就職率が高いのが特徴だ。今回は建設業界に就職先を決めた建築科の生徒8人を3回に分けて紹介する。第1弾は技能者として就職する3人の男子生徒をピックアップ。塗装業に就職するレクト・ワキン・ミケルさん、とび工事業に就職する澤口絆さん、鉄筋業に就職する藤中光さんに話を聞いた。

レクト・ワキン・ミケルさん（3年生）。趣味は身体を動かすこと

澤口絆さん（3年生）。趣味はバイク。木更津などに足を運ぶ

藤中光さん（3年生）。5人兄弟の長男で趣味は兄弟で遊ぶこと

―建設業に進むきっかけは。

ミケル「中学3年生からスケートボードにのめり込んでいて、スケートパークをデザインしたいと思い、建設業に興味を持った。両親が内装関連の会社に勤めていたことも要因だ。将来は叔父の会社に就職したいが、まずは社会勉強のためとび工事業を選んだ」

藤中「中学3年までの道に進みたいか考えていなかった。勉強が得意ではなかったので、家から近い墨田工科高校を選んだ。入学して1年間は、平均的に2社まで絞り込んだ。

澤口「叔父から建設業の厳しさを聞いていたが、それでも建設業を続けているので逆に興味が湧いた。楽な仕事はないと考えており、仕事量も多いと聞いているので、大変でもやってみたい。昔と違って粗暴なイメージがなくなりつつあると聞き安心している」

藤中「建設業イコールブラック企業のイメージが強かった。残業だけで、上下関係が厳しいなど建設業は怖い印象があった。だがそれは全てイメージで、実際に就職して自分の目で確かめなければという思いもある」

―どう就活したのか。

ミケル「今年に入り、自身で衣服関連のブランドを立ちあげた。建設業に就職するか、衣服ブランドの方向に進むか考え、収入が安定する建設業の道を選択した。就活に大切にしたのは、自分の趣味のスケートを仕事に生かせるか。当初は、スポーツ施設整備関連の会社に進もうと考えたが、人材募集している企業が見つからず、視野を広げて考えたときに塗装業に行きついた。施工事例を中心に企業情報を見て、最終的に2社まで絞り込んだ。

澤口「叔父の会社に就職したいと思っていた。建設業に興味を持ったのは、小学3年生の時に鉄筋工事業の会社に魅力を感じた」

ミケル「朝早くから夜遅く帰宅する両親の姿を見て、働くには厳しいと思っていた。反面、仕事休日とよく出かけており、人間関係が充実していると思った。両親が楽しそうに仕事をしているので、建設業に魅力を感じている」

藤中「実習科目のスピードに付いていけず苦痛だったが、辞めたらいよいよ終わりだと考え、全力で食らいついた。建築を学ぶうちに、建設業に興味を持ち、特に鉄筋工事業の会社に魅力を感じた」

―建設業のイメージは。

ミケル「朝早くから夜遅く帰宅する両親の姿を見て、働くには厳しいと思っていた。反面、仕事休日とよく出かけており、人間関係が充実していると思った。両親が楽しそうに仕事をしているので、建設業に魅力を感じている」

藤中「設計デザインの仕事に就きたい」

澤口「叔父がとびの会社を経営しており、建設現場で働く姿を見ておりいいと憧れた。中学1年生の頃から、自分でも足場を組みたいと思い、工業系の学校の入学を希望した。将来的に平均的に2社まで絞り込んだ。

澤口「叔父から建設業の厳しさを聞いていたが、それでも建設業を続けているので逆に興味が湧いた。楽な仕事はないと考えており、仕事量も多いと聞いているので、大変でもやってみたい。昔と違って粗暴なイメージがなくなりつつあると聞き安心している」

藤中「建設業イコールブラック企業のイメージが強かった。残業だけで、上下関係が厳しいなど建設業は怖い印象があった。だがそれは全てイメージで、実際に就職して自分の目で確かめなければという思いもある」

澤口「昔から足場に憧れていたので、とび職に限定して就活を開始した。都内勤務で、大規模の現場に携われる会社を志望。数社に絞った段階で、次に会社の雰囲気を重視した。インターンシップで現場を見学した際には、職長と職人がどうコミュニケーションを取っているのか、社員の仕事に対する姿勢を観察するよう心掛けた。金子架設工業はとびや床版、鍛冶の総合力で躯体業の主要工程に携われることが魅力的だ。インターンに参加し、細かい質問でも丁寧に対応してくれたことが好印象だった。逆に就活で給与の優先順位は低かった。20万円前後の平均給与さえもらえれば、満足だと考えた」

藤中「給与の高さと休日数の多さを重視した。アイコーは基本給が高く、現場手当などの支給を含めて他企業よりも高いのが魅力的だった。完全週休2日制を採用しており、年間休日数は125日以上のため、ワークライフバランスが整っている会社だと感じた。墨田工科高校出身の先輩も入社していたので安心感もあった」

（多摩支局＝八坂篤穂）

澤口「叔父の会社に就職したいと思っていた。建設業に興味を持ったのは、小学3年生の時に鉄筋工事業の会社に魅力を感じた」

ミケル「朝早くから夜遅く帰宅する両親の姿を見て、働くには厳しいと思っていた。反面、仕事休日とよく出かけており、人間関係が充実していると思った。両親が楽しそうに仕事をしているので、建設業に魅力を感じている」

藤中「設計デザインの仕事に就きたい」

澤口「叔父がとびの会社を経営しており、建設現場で働く姿を見ておりいいと憧れた。中学1年生の頃から、自分でも足場を組みたいと思い、工業系の学校の入学を希望した。将来的に

澤口さん「社員の仕事に対する姿勢を」

ミケルさん「趣味を生かせる企業に」

藤中さん「給与と休日数を重視した」

都計道3・4・12号 都に早期整備など求める

三鷹市／北野の里まちづくり方針

三鷹市は、「北野の里（仮称）まちづくり方針」における面の重点対応方針案（）をまとめた。国土交通省などが整備を進める東京外かく環状道路（外環道路）の（仮称）東八道路インターチェンジ（IC）整備などに伴う交通量の増加を見込み、都に東八道路北側区間での都市計画道路3・4・12号の早期整備などを求めていく。

外環道路は、都心から約15㎞の圏域を環状に連結する延長約85㎞の道路。現在、関越道・東名高速間の約16㎞を事業区間としてシールド工法（仮称）まちづくり方針で整備を進めている。三鷹市には東ICや（仮称）中央ジャンクション（JCT）を整備、市は中央JCTの上部空間などその周辺地域を「北野の里（仮称）」と位置付け、土地の利活用を図る。

JCT上部空間の敷地面積は約20㎞。現在はパリ方針（）改定に向けた考えを示す。

利用が求められている。将来的には敷地面積約16㎞のうち約4000平方㎞を区間としてシールド工法